

註釈
刑事訴訟法
第三卷

〔\$271～\$350〕

西原、春夫

立花書房

註 釈 刑事訴訟法

第三卷

〔§271～§350〕

〔著者代表〕

青柳文雄
伊藤栄樹
柏木千秋
佐々木史朗
西原春夫

立花書房

〔第3巻執筆者〕（五十音順）

青 柳 文 雄（上智大学教授）
 神 垣 英 郎（東京地方裁判所判事）
 小 林 充（東京地方裁判所判事）
 佐々木 史 朗（山形地方裁判所所長）
 柴 田 孝 夫（東京高等裁判所判事）
 西 原 春 夫（早稲田大学教授）

検印省略

定価 4000 円

註釈刑事訴訟法〔第三巻〕

昭和五三年八月二〇日初版一刷発行
 昭和五六年五月一〇日初版三刷発行

著 者 代 表

青	伊	柏	佐々木	西	塚
柳	藤	木	々	原	田
文	栄	千	史		
雄	樹	秋	朗	春	重
			夫	（五十音順）	嶋

発行所 株式会社 立花書房

（〇〇）東京都千代田区神田小川町一六二

電話 東京二九一一一五六一
 振替 東京二一九六三三七

印刷 錦明印刷株式会社
 製本 共 文 堂

Printed in Japan © 青柳，伊藤，柏木，佐々木，西原 1978

落丁・乱丁本はお取替えいたします。

ISBN4-8037-2413-10 C3032

筆者執卷全

立正大学教授 青柳文雄

元法経研究第二部長 朝倉京一

専修大学教授 伊藤栄樹

法務事務次官 白井滋夫

最高検察庁長官 柏木千秋

名古屋大学教授 神垣英郎

東京地方裁判所 亀山継夫

法務省大臣官房 河上和雄

法務省大臣官房 香城敏磨

神戸地方裁判所 小林 充

山形地方裁判所 佐々木史朗

東京地方検察庁 佐藤道夫

千葉地方裁判所 柴田孝夫

早稲田大学教授 西原春夫

東京地方検察庁 藤永幸治

公安部部長 増井清彦

東京地方検察庁 吉田淳一

東京高等裁判所

は し が き

刑事訴訟法は、理論的な体系書だけでは、それが現実にとのよう解釈運用されているのかを捉えることが困難である、およそ刑を科するには必ず訴訟の経過を必要とする刑事訴訟では、民事訴訟と異なり、訴訟法がどのように解釈運用されるかによって、刑法の解釈も影響される場合がある。その意味において、刑事訴訟法の解釈運用には慎重な検討を要する。のみならず、刑事訴訟においては、そこで追求される目的と手段とが、往々にして相互に対立する。この目的・手段の相互の対立は、糾問主義の歴史を踏まえ実体的真実の発見と手続の適法とから成り立つ大陸法に決闘裁判の歴史を踏まえ適正手続を最上の理想とした英米法を接ぎ木した現行法において、特に顕著である。刑事訴訟法の本格的コンメンタールがなかなか編集されなかったのも、刑事訴訟法の各規定の実務の運用が時期により揺れ動き、それらになお固定しないものがあつたためであろう。しかし、そのような困難にもかかわらず、刑事訴訟法施行後四半世紀を経て、いまその解釈運用は、どうやら定まってきたように思われる。このコンメンタールは、このようにして、まさに出るべき時期に企画された。本書では、裁判関係の部分はそれぞれ掲記した裁判官に、検察関係の部分は同様検察官に、そして、そのいずれの立場からでも一方に偏すると見られがちな部分を大学関係者が担当するという執筆分担にしてある。それぞれ多忙な方々であるが、執筆を快諾され、充実した論稿を寄せられたことは、感謝にたえない。

本書は、本文を全四巻として（別に文献索引、事項索引、判例索引から成る別巻を予定）、立花書房創立三〇周年の記念事業として企画されたものであり、今後、法と実務の発展につれて増補し、常に完全なものにしてゆく予定である。

本巻は、刑事訴訟法第二編「第一審」のうち、「公判」及び「公判の裁判」の二章についての註釈を収めている。公判手続は刑事訴訟の中心部分に位置し、特に、起訴状一本主義に基づく公判中心主義の法廷の運用、英米法の強い影響を受

けた証拠法は、これまで実務並びに学説・判例が最も勢力的に力を注いできた部分であり、膨大な学説・判例の集積をみていることは周知のとおりである。また、公判の裁判に関する部分は、条文の形式からは最も変革を受けることが少なかった分野であるけれども、訴因制度の採用や、英米法の理論の影響によって、その理論の発展には著しいものがある。そのような状況を踏まえて、本巻は第一・二巻にもまして浩瀚なものとなったが、第一・二巻と同様、刑事訴訟法の研究者並びに実務家に幅広く利用されることを期待してやまない。

昭和五三年六月二〇日

[著者代表]

青	伊	柏	佐	西
柳	藤	木	々	原
文	栄	千	木	春
雄	樹	秋	史	夫
	朗			

〔五十音順〕

凡 例

▽各編・各章に前説を置き、総論的な概説のほか、同編(章)に関連し、しかも他の編(章)で論ずるのが適當でない事項についても解説するとともに、同編(章)の各条文でとりあげるのが不適當な事項についても解説した。

▽条文の前の見出しは、六法全書等を参考にして各執筆者の表現を用いた。条文が二項以上にわたるときは、二項以下に②③……とそれぞれ条文の頭に番号を付して判りやすくした。

▽解説は、番号方式とせず、小項目方式とし、原則として当用漢字、現代仮名づかいとしたが、法典に用いられているもの、あるいは引用文は原文どおりとした。

▽解説は、判例の主流を中心とし、必要に応じて学説をこれに対比させ、その原典を示した。また、引用ひん度の高い文献については、別記の略語法によった。

▽各条の註釈の末尾に、執筆者を表示し、責任を明らかにした。なお、執筆要領については協定したが、内容についての意見調整は、個々の執筆者間において、関連条文の関係で行ったにとどまり、全体的には、特に行わなかった。ただ、編集代表において本書の目的に沿って一貫した記述となるよう努力した。

▽文献索引は、刑事訴訟に関する各種論文を網らした関係で、膨大なものとなったため、事項索引、判例索引とともに別巻として参照しやすい形をとった。この索引は、第四巻発刊後に続刊する予定である。

▽引用した関係法令名は、別記の略語を用い、本文中の条文は、刑事訴訟法については、単に条文番号のみとし、刑事訴訟規則については、単に「規則」とのみ表示した。

凡 例

四

▽本文括弧内では、次のような略号を用い、同一法令の条文は「・」（中点）で、異なる法令の場合は「、」（読点）でつなぎ、刑事訴訟規則については、「規」の字を付し、右と同様とした。

刑事訴訟法一九八条一項但書

一九八一但

刑事訴訟法二二〇条一項本文前段

二二〇一本前

刑事訴訟法二二〇条一項二号

二二〇一2

その他の法令については別記の略語を用い右と同様とした。

▽判例の表記には、別記略号を用い、次の例によった。

大審院判決昭和七年三月一四日大審院刑事判例集一一卷二三二頁Ⅱ大判昭七・三・一四刑集一一・二三二

最高裁判所判決昭和四七年七月一日最高裁判所刑事判例集二六卷六号三五五頁Ⅱ最判昭四七・七・一刑集二六・六・三五五

最高裁判所決定昭和四九年三月一三日最高裁判所刑事判例集二八卷二号一頁Ⅱ最決昭四九・三・一三刑集二八・二・一

なお公刊物未登載のものは「未」と表示した。

《略 語》

【判例集等略語】

刑 録 大審院刑事判決録

刑 集 大審院刑事判例集

刑 集 最高裁判所刑事判例集

裁判集 最高裁判所刑事裁判集

高刑集 高等裁判所刑事判例集

特 報

裁判特報

東高時報

下刑集

一審刑集

刑裁月報

高等裁判所刑事判決特報

高等裁判所刑事裁判特報

東京高等裁判所判決時報

下級裁判所刑事裁判例集

第一審刑事裁判例集

刑事裁判月報

【主要法令略語】

判時	判例時報	檢察	檢察審査会法
判タ	判例タイムズ	公選	公職選挙法
新聞	法律新聞	交通裁判	交通事件即決裁判手続法
刑資	刑事裁判資料	交通裁判規	交通事件即決裁判手続規則
印稅	印紙稅法	国会	国会法
應措	日本國憲法の施行に伴う刑事訴訟法の 応急措置に関する法律（廢止）	國公	國家公務員法
恩	恩赦法	國犯法	國稅犯則取締法
會	會計法	古物	古物營業法
監規	監獄法	裁	裁判所法
監	監獄法施行規則	裁限	裁判官分限法
刑	刑法	最事規	最高裁判所裁判事務處理規則
警職	警察法	司警職員	司法警察職員等指定応急措置法
警訴施	警察官職務執行法	司警職務指定	司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ 行フヘキ者ノ指定等ニ關スル件
刑訴施規	刑事訴訟法施行法	質屋	質屋營業法
刑訴費	刑事訴訟法施行法施行規則	少	少年法
輕犯	輕犯罪法	商	商法
刑補	刑事補償法	少審規	少年審判規則
刑補規	刑事補償規則	食品	食品衛生法
憲	憲法	人保	人身保護法
檢	檢察庁法	精神	精神衛生法
凡例		たばこ	たばこ専売法
		地公	地方公務員法

凡例

典	皇室典範
盜犯	盜犯等ノ防止及処分ニ関スル法律
毒劇法	毒物及び劇物取締法
独禁	私的独占の禁止及び公正取引の確保に 関する法律
内	内閣法
罰金臨措	罰金等臨時措置法
犯捜規	犯罪捜査規範
非訟	非訟事件手続法
沒收応措	刑事事件における第三者所有物の沒收 手続に關する応急措置法
弁護	弁護士法
法秩法	法廷等の秩序維持に關する法律
麻葉	麻葉取締法
民	民法
民執	民事執行法
民執規	民事執行規則
民訴	民事訴訟法
民訴規	民事訴訟規則
有	有限会社法
郵	郵便法
優生	優生保護法
予防更生	犯罪者予防更生法

勞安衛

勞働安全衛生法

【主要引用文献略語】

〔青柳・通論〕

青柳文雄著 五訂刑事訴訟法通論〔上・下〕

昭51

・立花書房

〔渥美・要諦〕

渥美東洋著 刑事訴訟法要諦

昭49・中央大学出
版部

版部

〔石川・講義〕

石川才顯著 刑事訴訟法講義 昭49・日本評論社

〔栗本・新刑事証換法〕

栗本一夫著 新刑事証換法〔改訂版〕 昭25・立花
書房

書房

〔栗本・実務刑事証換法〕

栗本一夫著 実務刑事証換法 昭35・立花書房

〔伊藤・實際問題〕

伊藤栄樹著 新版刑事訴訟法の實際問題 昭52・
立花書房

立花書房

〔井戸田・要説〕

井戸田侃著 刑事訴訟法要説〔I・II〕 昭40・41・
有斐閣

有斐閣

〔井上・原論〕

井上正治著 全訂刑事訴訟法原論 昭27・朝倉書
房

店

〔小野・概論〕

小野清一郎著

刑事訴訟法概論

昭23・法文社

〔柏木・刑訴〕

柏木千秋著

刑事訴訟法

昭45・有斐閣

〔鴨・証拠法〕

鴨良弼著

刑事証拠法

昭37・日本評論社

〔岸・要義〕

岸盛一著

刑事訴訟法要義

昭36・広文堂

〔江家・基礎理論〕

江家義男著

刑事証拠法の基礎理論〔訂正版〕

昭27・有斐閣

〔斎藤・刑訴法学〕

斎藤金作著

刑事訴訟法学

昭26・有斐閣

〔斎藤・安村・判例刑訴〕

斎藤寿郎・安村和雄編著

判例刑事訴訟法〔上・中・下〕

昭51・酒井書店

〔高田・刑訴〕

高田卓爾著

刑事訴訟法〔現代法律学全集二八卷〕

昭49・青林書院新社

〔滝川・コンメンタール〕

滝川幸辰・平場安治・中武靖夫著

刑事訴訟法〔法律学大系コンメンタール篇10〕

昭25・日本評論社

〔田中・新版証拠法〕

田中和夫著

新版証拠法〔増補第三版〕

昭47・有斐閣

斐閣

〔田宮・刑訴Ⅰ〕

田宮裕編著

刑事訴訟法Ⅰ〔大学双書〕

昭50・有斐閣

斐閣

〔田宮・捜査〕

田宮裕著

捜査の構造

昭46・有斐閣

〔伊達・講話〕

伊達秋雄著

刑事訴訟法講話

昭34・日本評論社

〔団藤・綱要〕

団藤重光著

新刑事訴訟法綱要〔七訂版〕

昭42・創文社

創文社

〔団藤・条解〕

団藤重光著

条解刑事訴訟法〔上〕

昭25・弘文堂

〔林・要義〕

林頼三郎著

刑事訴訟法要義〔上・下〕

大13・巖松堂

松堂

〔平野・刑訴〕

平野龍一著

刑事訴訟法〔法律学全集四三卷〕

昭

34・有斐閣

〔平野・概説〕

平野龍一著

刑事訴訟法概説

昭43・東京大学出

凡例

凡 例

版会

〔平場・講義〕

平場安治著 改訂刑事訴訟法講義 昭29・有斐閣

〔宮下・逐条解説Ⅰ〕

宮下明義著 新刑事訴訟法逐条解説Ⅰ 昭24・司

法警察研究会公安発行所

〔横井・逐条解説Ⅱ〕

横井大三著 新刑事訴訟法逐条解説Ⅱ 昭24・司

法警察研究会公安発行所

〔横井・ノート〕

横井大三著 刑事裁判例ノート(1)~(6) 昭46~48

・有斐閣

〔横川・実際〕

横川敏雄著 刑事裁判の実際〔改訂版〕 昭25・朝

倉書店

〔横川・研究〕

横川敏雄著 刑事裁判の研究 昭28・朝倉書店

〔注解刑訴〕

平場安治Ⅱ高田卓爾Ⅱ中武靖夫Ⅱ鈴木茂嗣著 注解

刑事訴訟法〔上・中・下〕 昭50 49 52・青林書院新社

〔ポケット刑訴〕

小野清一郎Ⅱ横川敏雄Ⅱ横井大三Ⅱ栗本一夫著 改

訂刑事訴訟法〔ポケット註釈全書(3)〕 昭41・有斐閣

〔執筆者・刑訴講座〕

日本刑法学会編 刑事訴訟法講座〔全三巻〕 昭39

・有斐閣

〔執筆者・刑事法講座〕

日本刑法学会編 刑事法講座第五巻、第六巻 昭

28・有斐閣

〔執筆者・演習〕

日本刑法学会編 刑事訴訟法演習 昭37・有斐閣

〔執筆者・演習大系刑訴〕

高田卓爾Ⅱ田宮裕編 演習刑事訴訟法〔演習法律学

大系(15)〕 昭47・青林書院新社

〔執筆者・実務講座〕

団藤重光編 法律実務講座刑事編〔全一二巻〕 昭

32・有斐閣

〔執筆者・実務ノート〕

河村澄夫Ⅱ古川実編 刑事実務ノート〔全四巻〕

昭46・判例タイムズ社

〔執筆者・実例刑訴〕

平野龍一Ⅱ松尾浩也編 実例法学全集刑事訴訟法

昭52・青林書院新社

〔執筆者・46講〕

判例時報編集部編 刑事訴訟法基本問題46講 昭

40・一粒社

【執筆者・公判法大系】

熊谷弘Ⅱ佐々木史朗Ⅱ松尾浩也Ⅱ田宮裕編
大系(全四巻) 昭49・日本評論社 公判法

【執筆者・証換法大系】

熊谷弘Ⅱ浦辺衛Ⅱ佐々木史朗Ⅱ松尾浩也編
大系(全四巻) 昭45・日本評論社 証換法

【執筆者・捜査法大系】

熊谷弘Ⅱ松尾浩也Ⅱ田宮裕編
昭47・日本評論社 捜査法大系(全三巻)

【執筆者・判例コンメンタール刑法】

高田卓爾編 判例コンメンタール⑬⑭
法Ⅰ、Ⅱ 昭51・三省堂 刑事訴訟

【執筆者・令状基本、同追加】

新関雅夫Ⅱ佐々木史朗他著
追加15問 昭45・一粒社 令状基本問題75問、同

【執筆者・判例解説】

最高裁判所調査官室編
降・法曹会 判例解説刑事編 昭29以

【雑誌類の略称】

【曹 時】 法曹時報

【司 研 集】 司法研修所論集

【司 研 所 報】 司法研修所報

【法 時】 法律時報

凡 例

【警 学】 警察学論集

【警 研】 警察研究

【刑判評釈】 刑事判例評釈集 昭13以降・有斐閣

【判 評】 判例評論

【ジュリ】 ジュリスト

【判例百選】 別冊ジュリスト刑事訴訟法判例百選

【法 教】 別冊ジュリスト法学教室

【法 セ ミ】 法学セミナー

【法セミコンメンタール】 別冊法学セミナー基本法コ

ンメンタール刑事訴訟法

【ひろば】 法律のひろば

立花書房の刑法関係好評書

元東京大学教授 藤 木 英 雄 著

新 版 刑 法 演 習 講 座

B 6 上 製 520頁
定価1800円 千300円

刑法総論、各論のうち、捜査官が数多く直面する重要な犯罪類型について詳細な設例をおき、その問題点のポイントを中心に演習形式による解説を加えている。解説は、指導判例を引用しつつ結論を出している。司法試験受験者にとっても応用力を養うのに好個の参考書である。

元警察庁刑事局長 日 原 正 雄 著

判 例 刑 法 講 義

(上) 増 補 版 384頁 定価600円 千300円
(下) 624頁 定価1000円 千300円

実務の経験と警察大学校における講義を通して得た研究成果をもとにまとめたもの。解説は判例を豊富に取入れ、実務的に書かれており、問題点を浮彫りにしているのがポイントをつかむのに便利である。また教科書の要素が強く、刑法を初めて学ぶ者にとっても適切な参考書である。

元東京地検検事 久 保 哲 男 著

図 説 刑 法 総 論

A 5 美 装 232頁
定価900円 千250円

著者多年の経験に基づく簡にして要を得た図解と説明で、刑法総論をやさしく解説している。しかも重要判例を網らし、設問と解答まで付した実務にも受験にも活用できる参考書。とくに巧みなイラストによって理論の正確な把握を期している。警察官の間で好評を博している。

元東京地検検事 久 保 哲 男 著

図 説 刑 法 各 論

A 5 美 装 280頁
定価1200円 千300円

刑法総論と同趣旨の編集方針で、刑法各論を実務家の立場から判例を中心に要領よく説明する。特に判例を数多く引用し、問題点も明らかにしている点は総論とともに警察官のための参考書である。イラストを多様し、視覚に訴えるユニークな刑法解説書。

元東京地検検事 笹 内 純 一 著

新 版 実 務 刑 法 全 訂 版

B 6 上 製 532頁
定価900円 千300円

判例・実例を中心とした実務家のための「生きた刑法の生きた解説書」。判例の豊富な本書は、刑法を実務的に理解し、具体的事件に正しく適用するために適切な参考書である。また中見出しの多い解説は受験参考書としても最適である。すでに「笹内刑法」として定評のあるところである。

東京高検刑事部長 村 上 尚 文 著

判 例 刑 法 入 門 総 論

B 6 美 装 268頁
定価1000円 千250円

未公開も含め500を超える基本判例を、刑法総論の問題点別に集約検討し、学説も引用して、捜査官にとって必要なポイントを網らしたユニークな解説書。初めて刑法を学ぶ者にとっても好個の参考書である。また各種試験の受験にも最適である。

東京高検検事 棚 町 祥 吉 著

行 政 刑 法 増 補 版

A 5 上 製 416頁
定価1500円 千300円

行政罰則の厳正な解釈と適正な運用が要望されているときその適用原理としての行政刑法の理解は極めて重要である。本書は複雑で多様な行政罰則を体系的に分類整理して、これに理論的考察を加え、構成要件の解明を行ったもので行政刑法の実証的な研究の成果でもある。

図解法学シリーズ

各法律の重要事項を図表化して、それに対応する解説を見開きで掲げるユニークな構成。学生、司法試験受験生、公務員等に欠かせないサブノート形式の法学参考書。〔全15巻・各巻B5美装〕

- | | | | |
|---------|--------------|--------|------------------|
| ⑦ 刑 法 | 横浜地検
交通部長 | 土本武司著 | 144頁定価1500円＋300円 |
| ⑨ 刑事訴訟法 | 横浜地検
交通部長 | 土本武司著 | 176頁定価1500円＋300円 |
| ⑫ 労働法 | 慶応義塾
大学教授 | 阿久澤亀夫著 | 184頁定価1800円＋300円 |
| ⑬ 国際公法 | 中央大
教授 | 経塚作太郎著 | 128頁定価1500円＋300円 |
| ① 憲 法 | 早稲田大
教授 | 時岡弘著 | 〔続刊〕 |

実務家のための 刑事法重点講座 全15巻

刑事法実務書の決定版（各巻B6上製）

- | | | | | |
|---------|---------------------|--------------------|-----------------|------------------|
| ⑧ 賄 賂 | 東京地検
法務省
青少年課 | 刑事局長
刑事局長
課長 | 佐藤道夫
飛田清弘 共著 | 356頁定価1400円＋250円 |
| ⑫ 取 調 べ | 東京高検
部 | 刑事局長 | 村上尚文著 | 288頁定価1000円＋250円 |
| ⑭ 逮 捕 | 東京高検
部 | 検事 | 棚町祥吉著 | 376頁定価1500円＋250円 |
| ⑪ 告訴・告発 | 東京地検
部 | 公判副部長 | 増井清彦著 | 〔続刊〕 |
| ⑮ 証 拠 | 最高検
部 | 公判部長 | 臼井滋夫著 | 〔続刊〕 |

註釈刑事訴訟法〔第三卷〕 目 次

はしがき

凡 例

第二編 第一審（つづき）

第三章 公 判……………〔前 説〕 神垣英郎……………三

第一節 公判準備及び公判手続……………〔前 説〕 神垣英郎……………七

第二七一条〔起訴狀謄本の送達と公訴提起の失効〕……………七

第二七二条〔弁護人選任権等の告知〕……………一四

第二七三条〔公判期日の指定、召喚、通知〕……………一八

第二七四条〔召喚状送達の擬制〕……………三三

第二七五条〔期日の猶予期間〕……………三三

第二七六条〔公判期日の変更〕……………三四

第二七七条〔不当な期日変更に対する救済〕……………四一

第二七八条〔不出頭と診断書の提出〕	四二
第二七九条〔公務所等に対する照会〕	四三
第二八〇条〔勾留に関する処分〕	四七
第二八一条〔期日外の証人尋問〕	五六
第二八一条の二〔被告人の退席〕	六二
第二八二条〔公判廷〕	六五
第二八三条〔被告人たる法人と代理人の出頭〕	六九
第二八四条〔軽微事件における出頭義務の免除・代理人の出頭〕	七一
第二八五条〔出頭義務とその免除〕	七三
第二八六条〔被告人の出頭の権利義務〕	七六
第二八六条の二〔出頭拒否と公判手続〕	八〇
第二八七条〔身体の不拘束〕	八四
第二八八条〔被告人の在廷義務、法廷警察権〕	八六
第二八九条〔必要的弁護〕	九七
第二九〇条〔任意的国選弁護〕	一五
第二九一条〔冒頭手続〕	一六
第二九一条の二〔簡易公判手続の決定〕	二七
第二九一条の三〔決定の取消〕	三四